

# 令和4年度

## 大学院授業時間割表・授業内容表

### 目次

授業時間・履修登録上の注意事項	1
令和4年度授業等計画	2
授業計画表	3
授業時間割表	
教職リーダーコース（前期・後期）	4
授業実践開発コース（前期・後期）	6
特別支援教育実践開発コース（前期・後期）	8
授業内容表	
共通科目・選択科目	10
教職リーダーコース	11
授業実践開発コース	12
特別支援教育実践開発コース	16
課題研究Ⅰ・Ⅱ時間割コード一覧	17
課題研究Ⅲ・Ⅳ時間割コード一覧	18
教室配置図・教員研究室配置図	19

群馬大学大学院教育学研究科

## 共通科目

## 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
教育課程編成の理論と実践	吉田・久保 紺谷 他	EP1001	前	月	7-8	2	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法について学ぶ。また各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義や実際について具体例から学ぶ。
授業分析実践	鈴木 豪 川野 文行	EP1002	前	月	3-4	2	授業を分析・構築するための心理学的および実践的視点を学んだ上で、それらの知見をいかに実際の授業で活用しうるか検討する。
生徒指導の理論と実践	吉田 浩之 日暮 利明	EP1003	前	火	5-6	2	生徒指導に関する基礎的知識と具体的な方法論を学ぶ。生徒指導の意義や目的を理解した上で、日常的な生徒指導のあり方や方法を踏まえ、さらに、いじめ、不登校、非行の課題や学校不適応に対する個別的・組織的な対処の方法、生徒指導と学級・ホームルーム経営のあり方、生徒指導と家庭や地域、関係機関との連携を扱っていく。
学校づくりと学級経営	音山・坂西 高橋・平林	EP1004	前	水	3-4	2	教育改革動向・教育政策展開、学校を取り巻く環境の変化を捉え、学校全体の状況や課題を包括的に分析検討する。そして、校内研修等の学校全体の組織的な取組、保護者や地域等との連携、危機管理および児童生徒の課題を多面的に捉えた学校づくり、学級経営のあり方について探求する。
教員の職能成長と倫理	三澤 紘一郎 立見 康彦	EP1005	後	月	3-4	2	研究者教員と実務家教員が協力し、教育学の学問的成果や蓄積を、受講生の(実習を含めた)学校現場での実体験や実感と乖離させないかたちで学んでいく。学校教育を内部からとらえる視点と外部からとらえる視点を融合させ、学校教育の在り方、教員の在り方に関する総合的な見識を身につけられるようにする。
多文化共生教育の課題と実践	新藤 慶 山田 恵美子	EP1006	前	金	3-4	2	群馬県にも多くが生活するブラジル人児童生徒を対象とした多文化共生教育に関する諸研究や諸実践を、子ども、教師、保護者と教育行政などさまざまな視点から検討することで、実態の的確な把握と、よりよい実践の構築につなげたい。

## 選択科目

## 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
教職実践基礎研究A	上原 永次 久保 信行	EP1064	前	月	1-2	2	教職未経験の学生を対象とし教職の実践を行うために必要となる基礎的な資質・能力を育成する。
教職実践基礎研究B	上原 永次 久保 信行	EP1065	後	火	5-6	2	教職未経験の学生を対象とし教職の実践を行うために必要となる基礎的な資質・能力を育成する。

# 教職リーダーコース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
カリキュラム開発の理論と実践	山崎 雄介 平林 茂	EP1007	前	金	1-2	2	カリキュラムの開発およびマネジメントにかかわる諸理論、社会変化と学校カリキュラムの関連などをふまえ、また受講者諸氏のカリキュラム開発の経験も交流し合いつつ、ミドルリーダーとしてカリキュラム開発に貢献できる力量の育成をめざす。
学習支援の理論と実践	佐藤 浩一 川野 文行	EP1008	前	火	3-4	2	児童生徒の知識の定着、学習の転移、対話的な学び、メタ認知等を促す教授学習の方法について、心理学(認知心理学、学習心理学、教育心理学など)の理論知と、学校現場での実践知の両面から検討する。
教育評価の理論と実践	山口 陽弘 川野 文行	EP1009	後	金	1-2	2	近年しばしば話題となっている「真正の評価」について具体的に授業に即して何をすべきかを解説し実際に授業の中で何をするのかを、グループワークを通して具体化していく。たとえば特定教科における「パフォーマンス評価」とそのルーブリックの作り方について一緒に考えていく。
子ども理解と支援・指導の理論と実践	大島 みずき 懸川 武史	EP1010	後	水※	1-2	2	児童生徒理解のための基礎的理論として一般的な発達特性、及び発達障害について講義する。 また、今日的な児童生徒の課題を含め、一人一人の課題を理解し、支援・指導するための実践的な方法について事例をもとに検討する。授業は研究教員・実務家教員によるTTで行われる。 ※授業の一部は集中で日程を組むことがある。
特別活動指導の理論と実践	音山 若穂 坂西 秀昭	EP1011	前	水	1-2	2	特別活動、特に学級経営・生徒指導の基盤となる学級活動の進め方について、多様な指導方法の種類とその特徴について理解し、有効な目標設定・教師の支援・教育効果の評価のための技能の向上を目指す。特別活動で要求される教師の心理教育的支援技能の実習を含む。
学校経営の理論と実践	高橋 望 平林 茂	EP1012	後	火	5-6	2	国内外の学校経営にかかる理論的・実践的蓄積を幅広く学修するとともに現代日本における学校教育にかかる諸課題について具体的な学校経営策を探求・学修する。教育行政、学校経営、教育経営の在り方について理解を深める。
学校評価とスクールリーダーシップ	山崎 雄介 立見 康彦	EP1013	後	金	3-4	2	学校のビジョン、ミッションの策定にミドルリーダーとして貢献できる力量を育成するとともに、そうしたビジョン、ミッションの実現にむけて学校を動かしていく手段として学校評価を使いこなせる力量を育成する。
地方教育行政の理論と実践	高橋 望 野村 晃男	EP1014	前	集中		2	地方教育行政をめぐる法制度と実践上の諸課題について、近年の教育改革動向を鑑みながら、理解を深める。また、地方教育行政機関等へのフィールドワークを通して、実態把握や今後の在り方について検討する。
外国につながる児童生徒の指導と支援	新藤 慶 山田 恵美子	EP1015	後	金	5-6	2	国内外における外国籍児童生徒や「外国籍」ではないがエスニック・マイノリティの児童生徒を対象とした支援と、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し今後のエスニック・マイノリティの児童生徒教育のあり方について考えたい。
学校組織マネジメント演習	高橋 望 小林 清	EP1016	後	集中		2	学校組織のマネジメントの在り方、方法等について、国内外の理論的・実践的蓄積を幅広く学修する。 また、具体的事例を分析・検討することを通して理解を深めるとともに、置籍校等へ反映・実践することを目指す。
学校危機管理の理論と実践	高橋 望 野村 晃男	EP1017	通	集中		2	学校における危機管理について、リスクマネジメント・クライシスマネジメントの両面から検討を行い、具体的な危機管理体制について探求する。
教育アセスメント演習	音山 若穂 大島 みずき 新藤 慶	EP1018	後	月	7-8	2	教育実践研究に必要な個人および集団を対象とした各種アセスメント技法の演習。教育調査の方法、心理尺度と統計処理法、幼児期から青年期にかけて個人のアセスメントに用いられる主要な心理発達検査を紹介する。受講者相互に検査者・被検査児役となって演習し、検査技法を習得することも含む。
高度経営力・指導力開発実習Ⅰ	全教員	EP1066	通	集中		4	各種調査結果や観察データの分析により、実習校が抱える教育課題を見いだすなど、2年次の実践研究に向けた実態把握・分析・実態に基づく研究構想の検討を行い、研究計画を具体化する。県内外の先進校や関係機関等での情報収集、学会や研修会への参加を行うなど、通年で院生個人の研究テーマに応じた実習を実施する。
高度経営力・指導力開発実習Ⅱ(2年次開講)	全教員	EP067	通	集中		6	2年次の4月から12月までの長期間をかけて、実習校(勤務校)において、自らが設定した課題を解決する方策を計画・実践する。期間中の24日を実習日に指定し、実習日誌と省察用紙にまとめることで、自らの実践を評価・再考察し、次の実践につなげていく。実践がまとまった段階(10月～12月初旬)で、公開の実践検討会を開催する。大学院指導教員が実際に実習校(勤務校)を訪問し、指導する時間は20時間程度である。
高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ	全教員	p.17 参照	前	火	未定	1	教員育成指標キャリア段階Ⅱ・Ⅲを目標とし、実務家教員と研究者教員の支援のもとで、自身の課題を明らかにし、その解決策を考え、実践を行うことを目的とする。今期では、各自の研究テーマに合わせて、関連文献や資料等の検討を行ない、自身の研究課題を明確にしていく。
高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ	全教員	p.17 参照	後	火	未定	1	教員育成指標キャリア段階Ⅱ・Ⅲを目標とし、実務家教員と研究者教員の支援のもとで、自身の課題を明らかにし、その解決策を考え、実践を行うことを目的とする。今期では、自身の研究課題に応じて、関連文献や資料、指導案等の検討を重ねながら、課題の解決策を探究し、次年度の実践に繋げていく。
高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ(2年次開講)	全教員	p.18 参照	通	集中		2	現職教員各自が自身の勤務校に戻り、実際に解決実習において解決していく。少なくとも一学期中に2回の校内での公開授業(ねらいb)を実施してもらうことを目標にする。事前調査となるアンケート・効果検証のための能力測定のテスト等を実施する。 短期的なルーブリックにとどまらず、1年間を通しての長期的ルーブリックを設定する。ねらいbを2回実施し、事中調査となるアンケート調査・効果検証のための能力テストを実施する。
高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ(2年次開講)	全教員	p.18 参照	通	集中		2	現職教員各自が自身の勤務校で解決実習において課題を解決していく。二学期中に1回の校内での公開授業(ねらいb)と、1回の校外での公開授業(ねらいa)を実施してもらう。さらに公開での課題研究発表会を行ってもらう。課題研究論文も並行して執筆してもらう。 同時に最後のまとめとなるねらいaの準備をしていく。ほぼ半年間のまとめとなるねらいaの授業、及び事後調査を実施する。最後に公開の課題研究発表会の準備を行い、論文をまとめると同時にその成果を発表する。

# 授業実践開発コース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
横断的・総合的な学習指導の理論と実践A	上原 永次 阿部 充寿 他	EP1019	後	月	9-10	2	教科横断的・総合的な学習課題(従来総合的な学習の時間において扱われてきたテーマ:国際平和、環境問題、健康問題、国際理解、情報、地域の課題など)を探究することによって、授業開発力を養う。また、教科横断的な学習および総合的な学習の構想と展開について実務家教員と研究者教員との共同で、学生を交えた少人数のグループを作成し具体的な事例を分析しながら検討するとともに教科横断型の学習および総合的な学習のモデル立案、単元開発を行う。
横断的・総合的な学習指導の理論と実践B	上原 永次 日暮 利明 他	EP1020	後	月	9-10	2	教科横断的・総合的な学習課題(従来総合的な学習の時間において扱われてきたテーマ:国際平和、環境問題、健康問題、国際理解、情報、地域の課題など)を探究することによって、授業開発力を養う。また、教科横断的な学習および総合的な学習の構想と展開について実務家教員と研究者教員との共同で、学生を交えた少人数のグループを作成し具体的な事例を分析しながら検討するとともに教科横断型の学習および総合的な学習のモデル立案、単元開発を行う。
授業研究の理論と実践	濱田 秀行 日暮 利明 他	EP1021	前	金	9-10	2	学校において取り組まれる授業研究(Lesson Study)とその基礎となる授業分析の理論と実践について学ぶ。授業における児童生徒の学びを的確に分析・把握し、同僚との対話と省察を通して授業実践の取組みを進めることが出来るようになることを目的とする。
道徳教育の理論と実践	久保 信行 小谷 英生	EP1022	後	火	7-8	2	よりよい道徳授業づくりを念頭におきながら、道徳教育の意義や在り方、目標・内容・方法を学ぶ。また、学習指導案の作成、模擬授業を通して、道徳授業を行うのに必要な実践的指導力を身につける。
国語科学習指導の理論と実践	濱田 秀行 河内 昭浩	EP1023	後	水	3-4	2	国語科において育成すべき「資質・能力」を踏まえた指導方法や学習評価のあり方について理解を深めるとともに、実際の授業事例について、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の観点から検討を行い、その改善について議論する。
社会科学習指導の理論と実践	宮崎 沙織 栗谷 好子	EP1024	後	水	3-4	2	社会科、地理歴史科、公民科教育の目標・内容・方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら、実践上の課題について考察を行うとともに、実習における授業のデザイン、検証、省察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。
英語科学習指導の理論と実践	渡部 孝子	EP1025	後	水	3-4	2	英語科学習指導における小中高接続を目指し、心理言語学と認知言語学の観点に基づく言語の理解と産出の仕組みに焦点を当て、第二言語習得、第一言語習得、外国語学習の相違点を明らかにしながら、中学・高校における授業分析を行い新学習指導要領における英語教育の目標達成に向けた効果的な言語活動のあり方を検討する。
算数・数学科学習指導の理論と実践	澤田 麻衣子 小泉 健輔	EP1026	後	水	3-4	2	算数・数学科の教育方法のあり方や学習評価の考え方について理解を深め教育実践上の問題を考察する。また授業を目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の観点から捉え、その改善について議論を行う。
理科学習指導の理論と実践	益田 裕充 栗原 淳一	EP1027	後	火	3-4	2	理科の目標・内容や指導方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら実践上の課題について考察を行うとともに実習における授業デザイン、検証、省察を通して授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。
技術科学習指導の理論と実践	関口・古田 小熊・片柳	EP1028	前	火	5-6	2	技術科教育の目標、内容、方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら実践上の課題について考察を行うとともに実習における授業のデザイン、検証、考察を通して授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。
音楽科学習指導の理論と実践	吉田 秀文 伊東 陽	EP1029	前	水	1-2	2	教科教育の目標・内容・方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら、実践上の課題について考察を行うとともに、授業のデザイン、検証、省察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。
図画工作・美術科学習指導の理論と実践	郡司 明子 市川 寛也	EP1030	後	火	5-6	2	教科教育の目標・内容・方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら、実践上の課題について考察を行うとともに、実習における授業のデザイン、検証、省察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。
家庭科学習指導の理論と実践	上里 京子 佐藤 佐織	EP1031	前	月	9-10	2	家庭科教育の目的・内容・方法について理解を深め、教育実践上の課題を考察する。また、家庭科教育実践に関する文献や授業実践記録などの分析を通して、学習者が生活者として自立し、生活問題の解決を可能とする知識と技術、諸能力(意思決定能力や批判的思考能力等)を習得するために必要な授業設計、評価、授業改善の視点や方法について体験的に学ぶ。(オムニバス方式/全15回) (上里/8回) 家庭科教育の目的・内容・方法について理解を深め、教育実践上の課題を考察する。また、それらの課題を踏まえたカリキュラム開発や学習指導方法に関する理論に基づき、家庭科の授業デザインについて検討する。 (佐藤佐/7回) 実習等における家庭科の授業構想、省察と評価による授業効果の検証を行い、授業改善の視点や方法を検出するとともに、授業デザインについて実践的検討を行う。
保健体育科学習指導の理論と実践	木山 慶子 鬼澤 陽子	EP1032	後	火	3-4	2	保健体育授業の具体的な実践例をもとに、教授・学習の実践上の諸課題を多面的な観点から把握・分析し考察する。さらに、授業づくり、授業実践、授業評価及び省察を体験的に学ぶことを通して「よい体育授業」を見据えた授業改善のプロセスを理解・習得し、授業実践力を養う。
学校教育におけるICTの実践と課題	日暮・小熊 紺谷	EP1037	前	月	5-6	2	学校における教育の情報化について、授業でのICT機器の利活用、情報モラル教育、校務での活用の3点について総合的に学ぶ。また、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での指導を想定した模擬授業を取り入れるなど実践的な内容とする。
インクルーシブ教育としての学習指導	霜田 浩信 他	EP1038	後	集中		2	共生社会の形成にむけたインクルーシブ教育の展開を進めるために、多様性のある人々との活動参加をはじめとして、多様な児童生徒が在籍する学級での個別学習支援や授業実践を検討する。
幼小連携の課題と実践	安藤 哲也	EP1039	前	水	1-2	2	幼児期から児童期にかけての子どもの発達実態を踏まえ、幼小接続期の指導の在り方について、子どもの学びに焦点を当て、幼児期の教育と小学校教育双方の立場から検討する。特に、幼児期の教育での学びを小学校の教師がどのように見取り、どのように学習に活かしていくのかを授業実践事例を基に具体的に探究する。
生活科教育の課題と実践	安藤 哲也 阿部 充寿	EP1040	後	火	5-6	2	幼児期の教育から中学年以降の教育へのつながりや低学年における他教科との関連を考える上で中核となる生活科の学習指導方法について検討する。特に、具体的な活動や体験を重視しつつ、気付きの質を高めるとともに、子どもにとって自覚的な学びとなる指導の在り方について、授業実践事例を基に探究する。

# 授業実践開発コース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
小学校英語教育の理論と実践	渡部 孝子 阿部 充寿	EP1041	後	月	7-8	2	小学校外国語活動・英語教育に関わる教育実践について第二言語習得理論をいかに教育実践に活かし、その実践の教育効果について検証した後、次の実践に向けてどのような修正が必要かを検討する。特にContent and Language Integrated Learningについて小学校教科教育での学びとの教科横断的なアプローチを通した学習目標の設定、教材研究、授業構想、評価方法について学び、児童の学習思考言語能力育成を目指した英語教育実践について追求していく。
教育相談の課題と実践	懸川 武史	EP1042	前	集中		2	適宜基礎的な心理学(教育心理学、臨床心理学)の知識に触れつつ、学校教育相談からの関わりが期待される問題(不登校、いじめ、非行、虐待など)について教員及び学校組織としての支援・指導等について考察を深める。特にスクールリーダーとして上記の問題におけるコーディネート機能や外部機関との連絡調整、予防促進機能を検討する。
国語科内容構成学	藤本・小林英 永由・濱田 小林正・河内	EP1043	前	金	7-8	2	対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり、問い直したりして言葉への自覚を高めることのできる学習活動が国語科教育においてどのように実践されてきたのか、またどのように構想できるかを国語科の[知識及び技能]を構成する事項毎に追究する。
社会科内容構成学	齋藤・関戸 藤森・青山 栗谷・今井 小谷・宮崎	EP1044	前	水	1-2	2	<p>社会科、地理歴史科・公民科の教材構想と授業実践に関わる理解を深め、深い学びを重視した社会科の授業構成力を身に付ける。そのために、教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや、授業研究の目的と方法を理解して授業を改善する力を高めることについての理解を踏まえ、先行的授業実践事例や自己作成になる学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動を進め、理論と実践の往還を通じて社会科の学習指導力の向上を図る。</p> <p>(藤森) 日本史領域を中心に因果関係の追究などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動について指導・助言を行う。</p> <p>(今井) 外国史領域を中心に、因果関係の追究などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動について指導・助言を行う。</p> <p>(青山) 自然地理領域を中心に、社会的な見方・考え方などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。</p> <p>(関戸) 人文地理領域を中心に社会的な見方・考え方などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。</p> <p>(齋藤) 法・政治関係など公民領域を中心に、意思決定や社会参画などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。</p> <p>(小谷) 倫理関係など公民領域を中心に意思決定や社会参画などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。</p> <p>(宮崎) 地理領域・公民領域を中心に教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや授業研究の目的と方法を理解して授業を改善する力を高めることについて指導・助言を行う。</p> <p>(栗谷) 歴史領域を中心に教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや授業研究の目的と方法を理解して授業改善することについて指導・助言を行う。</p>
英語科内容構成学	渡部・田中 三原・柴田 金田・山田 フーゲンブーム カステヤーノ 津久井	EP1045	前	金	5-6	2	<p>英語科の内容を構成する「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」「英語科教育」の各分野の理論的背景を理解した上で実際の授業実践に理論的知見をどのように応用できるか、理論と実践の往還を目指す。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(渡部/1回) 英語科の学習内容と言語学習について統合的に捉え、学習指導要領に示される児童生徒の英語コミュニケーション能力を育成するための教材研究、授業研究について学ぶ。</p> <p>(山田/1回) 英語学、特に文法論の知見から、日本語と英語の文法構造を比較対照することで、日本人英語学習者のつまづきやすい学習項目を明らかにし、その具体的な支援策を考える。</p> <p>(柴田/2回) 子どもが音韻法則を獲得していく過程を理論に基づいて分析し、英語の非母語話者に対する音声教育への応用を試みる。</p> <p>(フーゲンブーム/2回) 英語コミュニケーションの知見から、日本語と英語におけるコミュニケーションの相違を明らかにし、効果的で効率的な英語コミュニケーション能力の育成について具体的な支援策を考える。</p> <p>(金田/2回) 現代批評理論において文学がどのような視点から論じられているのかを概観すると同時に日本における文学に対する概念を歴史的に検証することで、教育現場での文学テキスト使用の可能性を考える。</p> <p>(田中/2回) 義務教育における初級英語教育と大学における専門外初修外国語としての初級ドイツ語教育とを比較対照し、双方の諸課題を検討しながら初級外国語教育における異文化理解の在り方を考える。</p> <p>(三原/2回) フランスを初めとする諸外国と日本(群馬)の文化や歴史上の関係について考察する。自国の文化への理解を深めつつ、いかに国際理解教育を進め異文化を尊重する態度を育成するかを考える。</p> <p>(カステヤーノ/2回) オンラインや対面など様々な授業形態を踏まえながら、英語コミュニケーション授業におけるCALL/ICTの活用方法を考える。</p> <p>(津久井/1回) 中高等学校において、新課程で求められる言語活動の在り方と指導上の課題、観点別評価について学ぶ。</p>

# 授業実践開発コース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
算数・数学科内容構成学	伊藤・照屋 山本・澤田 石井・小泉 大下	EP1046	前	火	1-2	2	小学校算数から、中学校・高等学校の数学に至るまでの長期に渡る内容構成について学習指導内容の体系性、系統性において考察する。また数学の基礎的知識内容の理解を確認し、授業の具体的な目標や内容、方法について議論を行うことで教材研究・教材開発をすすめていく。
理科内容構成学	岩崎・日置 佐野・佐藤 青木・益田 栗原	EP1047	後	火	9-10	2	理科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し、児童生徒が教科の目標として示される資質・能力を高めるための能力を養う。
技術科内容構成学	関口・古田 小熊・片柳	EP1048	後	水	3-4	2	技術科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し、生徒が技術科の目標として示される資質・能力を高めるための教材研究・教材開発について議論を行う。
音楽科内容構成学	三國・吉田 西田・菅生 山崎・伊東	EP1049	後	水	1-2	2	音楽科の活動分野である「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を指導するために必要な教師の資質や能力を高め、子どもの意欲的な音楽表現能力を育成するための指導法を学ぶ。 授業では、講義や演習に加え、実技等のレッスンも行う。なお、実技の学習は、履修者のレベルや要望に基づき、学習内容を幅広くかつ柔軟に決定する。また、音楽に関する様々な知識(音楽史、伴奏法、ソルフェージュ、作曲等)及び我が国の伝統音楽や世界の民族音楽などについても造詣を深める。各分野と担当者は次の通り。歌唱(山崎)、鍵盤楽器(三國)、管弦打楽器(菅生)、作曲・ソルフェージュ(西田)、音楽教育・音楽史(吉田・中里)
図画工作・美術科内容構成学	林・齋江・郡司 喜多村・市川	EP1050	前	火	5-6	2	図画工作科・美術科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し児童生徒が図画工作科・美術科の目標として示される資質・能力を高めるための教材研究、教材開発について議論を行う。
家庭科内容構成学	上里・田中 佐藤佐・町田	EP1051	前	金	7-8	2	家庭科の教科内容とその構成について理解を深め、専門科学の成果をふまえて理論と実践の往還を図る。各教科内容の学習指導要領上の目標・内容・評価方法を理解し、教育実践上の諸課題や児童・生徒の発達課題に沿った教材開発及び授業開発について学ぶ。
保健体育科内容構成学	木山・中雄 鬼澤・田井 島	EP1052	前	金	5-6	2	体育・保健体育の教科内容について、専門科学の成果をふまえ、理論と実践の往還を図る。それぞれの教科内容の学習指導要領における目標・内容・評価を理解し、実践上の諸課題および児童生徒の実態に照らした、効果的な教材づくりを含む授業づくりを学ぶ。(オムニバス方式) (中雄・島・木山/8回)運動学及び運動生理学の研究成果をもとに、学習指導要領に示される領域の教材づくり、学習指導案作成、学習指導方法、評価を学ぶ。 (田井・鬼澤/7回)体育原理及びスポーツ哲学の研究成果をもとに、学習指導要領に示される領域の教材づくり、学習指導案作成、学習指導方法、評価を学ぶ。
社会科の教材研究と授業構想A	齋藤・関戸 藤森・青山 栗谷・今井 小谷・宮崎	EP1053	前	火	9-10	2	小学校社会科と中学校社会科に関わる実践的課題を踏まえ、学校現場の実情に即した学習指導実践を構想する力を養うことを目的としている。まず小中学校の社会科実践における課題を追究する。そして、設定した課題に関わる各種文献・資料の収集・読解や授業実践例の収集・検討を通じて、教材研究の進め方・深め方や、深い学びを重視した授業構想・授業設計に関する理解を深める。その上で、設定した課題の解決を目指した社会科学習指導実践を立案・実践し省察を行う。
社会科の教材研究と授業構想B	齋藤・関戸 藤森・青山 栗谷・今井 小谷・宮崎	EP1054	後	火	1-2	2	中学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科に関わる実践的課題を踏まえ、学校現場の実情に即した学習指導実践を構想する力を養うことを目的としている。まず、社会科・地理歴史科・公民科実践における課題を追究する。そして設定した課題に関わる各種文献・資料の収集・読解や授業実践例の収集・検討を通じて、教材研究の進め方・深め方や、深い学びを重視した授業構想・授業設計に関する理解を深める。その上で、設定した課題の解決を目指した社会科・地理歴史科・公民科学習指導実践を立案・実践し、省察を行う。
教材研究と授業構想のための数学的基礎	伊藤・照屋 山本・澤田 石井・小泉 大下	EP1055	前	火	9-10	2	小学校算数から中学校・高校の数学までの教科内容の背景にある基礎的理論を代数学・幾何学・解析学の各領域から学ぶ。(オムニバス方式)
理科の教材研究と授業構想	岩崎・日置 佐野・寺嶋 岸岡・青木 佐藤	EP1056	前	火	1-2	2	小中高等学校の学習指導要領で示されている理科の目標、そして現代の教育課題を踏まえながら、理科授業においてどのような教材を選択、開発するか、そしてそれらを授業の中でどのように活用するかを考える。具体的には、教材や指導案の準備、模擬授業の実践、ふり返りを通して実践的な授業構想力を養う。
保健体育科の教材研究と内容構成A	中雄・田井 小山	EP1057	前	金	1-2	2	保健体育の内容について授業の構成や安全管理、今日的な課題についてなどに関する知識を深めるとともに、教材研究に関して運動学、運動方法学、スポーツ哲学の研究手法や内容の理解を深め、教育現場における諸課題について実例を挙げながら検証を行う。 また、実践例を検討する中で、新たな教材開発や授業デザインなどを構築できるよう、身につけた様々な専門知識を、教育現場の諸課題を解決する際に応用できるようにする。

# 授業実践開発コース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
保健体育科の教材研究と内容構成B	新井・島	EP1058	後	火	1-2	2	保健体育の内容について授業の構成や安全管理、今日的な課題についてなどに関する知識を深めるとともに、学校保健や生理学的な研究手法や内容の理解を深め、教育現場における諸課題について実例を挙げながら検証を行う。また、実践例を検討する中で、新たな教材開発や授業デザインなどを構築できるよう、身につけた様々な専門知識を、教育現場の諸課題を解決する際に応用できるようにする。
教育実践研究法	濱田 秀行 小熊 良一 他	EP1059	前		集中	2	研究対象としての教育実践を的確に分析・把握したり、課題を解決したりするための多様なアプローチのあり方について理解を深め、自分の課題研究の方法論を洗練することができるようになることを目的とする。
授業実践開発実習Ⅰ	濱田 秀行 上原 永次	EP1068	通		集中	2	先進校(附属学校園を含む)の教育実践改善の取組について、実際の授業を観察したり、授業検討会に参加したりすることを通して、授業実践改善の今日的な在り方や課題について理解を深めるとともに、他の学生や指導教員等と対話を行うことを通して自身の授業観や学習観、教育実践の在り方について省察を行う。
授業実践開発実習Ⅱ (2年次開講)	全教員	EP1069	通		集中	8	学部新卒学生は連携協力校において履修する。学校経営、学級経営、生徒指導、教育課程経営をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察する学校実習(インターンシップ)を行うとともに、実習校における授業実践改善のPDCAサイクルに参画する。授業の協働的なデザインと省察を通して授業実践を改善できる資質・能力を育成する 現職教員学生は置籍校において履修する。指導教員の指導・助言の下、特定の問題・課題の解決策を立案し、それを实地に検証する授業の協働的なデザインと省察を通して授業実践を改善できるようになる。また、校内の授業研究会や研究推進委員会の企画・運営を行い、学校の授業改善の取り組みの中核となることができる資質・能力を育成する。 ※大学の実習担当教員(研究者教員・実務家教員)が学生の実習先を訪問し指導に当たる。
授業実践課題研究Ⅰ	※各教科の指導教員が担当	p.17 参照	前		集中	1	自分の課題研究にかかわり先行議論の整理を行い、研究方法のアウトラインを作成する。授業における児童生徒の学びを的確に分析・把握し、同僚との対話と省察を通して授業実践改善の取り組みを進めることができるようになることを目的とする。
授業実践課題研究Ⅱ	※各教科の指導教員が担当	p.17 参照	後		集中	1	実習を行う学校の実践課題の文脈に自らの課題研究のテーマを位置付けて研究計画を作成する。授業における児童生徒の学びを的確に分析・把握し、同僚との対話と省察を通して授業実践改善の取り組みを進めることができるようになることを目的とする。
授業実践課題研究Ⅲ (2年次開講)	※各教科の指導教員が担当	p.18 参照	前		集中	2	連携協力校の教育課題に対して共同実践プログラムを作成する。授業実践開発実習Ⅱにおいて共同実践についてのデータを収集した上で、その分析と考察を実施する。その結果を踏まえて、実習校の指導担当教員と大学の指導担当教員の指導の下でリフレクションを実施する。授業実践課題研究のⅠ～Ⅲの成果と課題をまとめ、中間発表と討議を行う。そこでの議論を踏まえ、成果の整理と残された課題の確認を行う。
授業実践課題研究Ⅳ (2年次開講)	※各教科の指導教員が担当	p.18 参照	後		集中	2	授業実践課題研究Ⅲのまとめを踏まえ、連携協力校の教育課題に対して共同実践プログラム2を作成する。授業実践開発実習Ⅱにおいて共同実践についてのデータを収集した上で、その分析と考察を実施する。その結果を踏まえて、実習校の指導担当教員と大学の指導担当教員の指導の下でリフレクションを実施する。授業実践開発実習Ⅰ・Ⅱと一連の授業実践課題研究について振り返りを行い、課題の発見・分析→課題解決の計画・実践・省察→改善策の計画・実施・省察というPDCAサイクルにそって、自身の学びの履歴を整理する。最終報告会を実施し、それぞれの学びを共有し学修の総括を行う。

# 特別支援教育実践開発コース

# 授業内容表

授業題目	担当教員	時間割コード	学期	曜日	時限	単位	授業内容
特別支援教育におけるカリキュラムデザイン	木村 素子 内田 誠	EP1033	前	火	7-8	2	知的障害特別支援学校を中心に、教科別・領域別の指導ならびに領域・教科を合わせた指導の実施形態等の授業観察・分析、教育課程全体をとらえたカリキュラムマネジメントに関する事例検討、関連する先行研究の講読による理論の裏付け等の活動を通して、学習指導要領に規定される内容が実際にどのように編成され、学習活動の中で展開しているのかを理解し説明することができるようになるよう、学習活動を行う。
特別支援教育における授業実践	阿尾 有朋 内田 誠	EP1034	後	火	3-4	2	特別支援学校における子どもの一人ひとりの実態に即した授業作りと実践の技術を習得するとともに、検討・討議したことを成果物にまとめ、対話や文章等によって他者に説明できるようにすることを目標とする。前半では、授業場面のビデオ分析による教授行動の事例検討を観点別に行い、授業と指導計画の基本構造を理解した上でそれを説明できるようにする。後半ではビデオ分析で検討した各観点を踏まえた授業の立案を行い、模擬授業の実施を通して授業における基本的な指導技術を身につけ、事後には自らの行った授業の改善を行う。
特別支援教育コーディネーターの役割と課題	霜田 浩信 添島 康夫	EP1035	後	集中		2	特別支援教育コーディネーターとして、児童生徒における教育的ニーズの確かな把握、支援計画の立案、相談者の主訴に応じた暖かい相談を行うための能力を培うことを目標とする。特別支援教育コーディネーターとしての役割や技能を知識として学ぶだけでなく、フィールドワークとして、小学校、中学校等の通常学級における巡回相談への参与観察、事例検討等を通して必要とされる力量を培う。
特別支援教育の制度と学校・学級経営	金澤 貴之 上原 永次	EP1036	前	水	1-2	2	制度的な知識を学級経営の実践力に応用できる力を身につけることを目標とする。具体的な事例を紐解きつつ特別支援教育の制度について構造的に理解をし、その上で学校・学級経営において求められる実践的な応用力を養う。
特別支援教育の理論と実践	霜田 浩信 添島 康夫	EP1060	前	集中		2	特別支援教育の中でも、小・中学校の通常学級に在籍する児童・生徒に焦点を当て、個々の子どもの実態の把握、それに基づく個別の支援計画の立案、及び支援の方法について、実践事例を交えて具体的に学ぶ。
インクルーシブ教育の理論と課題	阿尾 有朋 峯岸 幸弘	EP1061	後	集中		2	世界のインクルーシブ教育の動向を概観した上で、日本のインクルーシブ教育の現状と課題について講義と討論を行う。また、肢体不自由児の実践事例を交えて、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校におけるインクルーシブ教育の理論と課題について実践的な知識を身に付ける。さらに、実践事例から実態把握と個別の指導計画作成を実際に行い、受講者の実践的な指導力を高める。
特別支援教育と医療・福祉との連携	吉野 浩之 金澤 貴之	EP1062	後	水	3-4	2	特別支援教育の中で医療や福祉との連携において求められる基本的な知識と技術を、実践例を交えて具体的に学ぶ。課題の設定およびディスカッションについては、研究者教員と実務家教員の両者で共同して実施する。
重度・重複障害教育の実践と課題	中村 保和 内田 誠	EP1063	後	金	3-4	2	特別支援学校に在籍している重度・重複障害児の理解とともに、その特別な教育的ニーズを的確に把握して個別具体的な支援方法を自ら創出し、実際に授業を構成していく力を身につけることを目標とする。授業の主な進め方としては、昨今における重度・重複障害教育における重要なトピックを複数あげ、それらのトピックについて研究者教員と実務家教員がそれぞれの立場や研究・実践の観点から講義(話題提供)を行う。提示したトピックについて質的に異なる二つの講義(話題提供)を踏まえ、教員と院生が教育実践の視点を共有しつつ意見交換および議論を行う。このような重度・重複障害教育の現状や課題に関する議論を通して、受講者が現代的課題を多面的に考察し、授業作りや支援の実践的な視点を養っていく。
特別支援教育課題発見実習Ⅰ	専任教員 他	EP1070	通	集中		2	1年間を通して、2単位分(60時間)の視察や観察を実施する。県内外の特別支援学校の公開研究会や研究会等に参加する。また、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害等の教育現場や福祉現場を視察する。これら公開研究会や教育福祉現場の視察を通して、学校およびそれを取り巻く環境の課題を明確にする協議を持つ。
特別支援教育課題発見実習Ⅱ	専任教員 他	EP1071	後	集中		2	特別支援教育に沿った学校教育課題や実践課題を捉えられること、学校教育課題や実践課題の解決のための計画と方法を策定できることを目標とする。現職大学院生、学部新卒大学院生とともに、①教育的ニーズに応じた個別支援、②ケース会議の参与、③授業実践の参与、④学校行事等への参加を通して学校教育課題や実践課題の解決のための計画と方法を策定することができる実習とする。
特別支援教育課題解決実習(2年次開講)	専任教員 他	EP1072	通	集中		6	1年次での特別支援教育課題発見実習ⅠⅡ、特別支援教育課題研究ⅠⅡによって設定された課題テーマの解決に向けた計画と方法の策定を行い、実践を行う。群馬県教員育成指標としては、現職大学院生はキャリア段階Ⅱ、Ⅲを、学部新卒院生ではキャリア段階Ⅰに関する育成指標を達成目標とする。大学の実習担当教員(研究者教員・実務家教員)が実習校に訪問し、実習校の実習担当教員と連携をとって指導に当たる。
特別支援教育課題研究Ⅰ	専任教員 他	EP1147	前	集中		1	特別支援教育における授業実践や学校運営の課題を発見、把握し、その解決の方策について構想できることを目標とする。特別支援教育課題発見実習Ⅰに連動する形で、それぞれの実習を省察しながら、特別支援教育の実践と理論を結びつけ、特別支援教育課題解決実習での課題テーマ(授業実践、学校運営)を構想する。指導時間は指導教員ごと設定する。
特別支援教育課題研究Ⅱ	専任教員 他	EP1148	後	集中		1	特別支援教育課題発見実習ⅠⅡに連動する形で、それぞれの実習を省察しながら、特別支援教育の実践と理論を結びつけ、特別支援教育課題解決実習での課題テーマ(授業実践、学校運営)を設定する。指導時間は指導教員ごと設定する。
特別支援教育課題研究Ⅲ(2年次開講)	専任教員 他	EP1149	前	集中		2	特別支援教育における授業実践や学校運営に関する課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践に基づく省察の諸能力と技能を習得することを目標とする。特別支援教育課題解決実習での実践を省察することを通して課題テーマの設定―課題解決の計画・実践・省察―改善策の計画・実践・省察といったPDCAサイクルに沿った実践を整理し、特別支援教育における実践モデルの開発を目指す。
特別支援教育課題研究Ⅳ(2年次開講)	専任教員 他	EP1150	後	集中		2	特別支援教育における授業実践に関する課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践に基づく省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題解決に向けた一連の諸能力と技能を習得することを目標とする。特別支援教育課題解決実習での実践を省察することを通して課題テーマの設定―課題解決の計画・実践・省察―改善策の計画・実践・省察といったPDCAサイクルに沿った実践を整理し、特別支援教育における実践モデルの開発を目指す。これら実践やモデルは実践報告書にまとめ、報告会を実施する。